

大阪インターナショナルチャーチ
ブライアン・ブルエット牧師

2013年12月8日

メッセージ：「霊の賜物を開封する」

導入

クリスマスが近づいてきました。世界中で繰り広げられるお祭り騒ぎを不思議に思う人々も、大阪にはたくさんいるのではないのでしょうか。私は幼いころ、クリスマスの本当の意味を教えられて育ちましたが、日常生活でそれをあまり実践している家庭ではありませんでした。クリスマスツリーを囲んで過ごすクリスマスの朝は、一年で一番の楽しみでした。ある年のクリスマスイブのことです。両親は私たち兄弟にこう言いました。「去年もらったクリスマスプレゼントを今晚、クリスマスツリーの周りに置いておきなさい。朝になったら新しいプレゼントがあるから、ありがとうという気持ちをこうやって表すのよ。」私たちはプレゼントを取りに自分の部屋に戻りました。私は兄にプレゼントがどこにあるか尋ねました。兄は、「どこかな...、何をもらったんだっけ？」と答えました。日本人はみんなラッピングが上手なので、私は感心します。私のラッピングは、お弁当を包んだようなお粗末なものだからです。今日は、ありきたりのことを超えた話をしたいと思います。キリストが人の姿で来てくださったことはもちろん、それまでの歴史の頂点と言えるべきことです。そのときはまだ、キリストの復活も昇天も聖霊降臨もまだ起こっていませんでした(ヨハネ3:16, ローマ6:23) (使徒1:8)。今日は、聖霊が来られた理由の一部に焦点を当てたいと思います。私たちクリスチャンには、聖霊の臨在がいつもあります。救われたとき、聖霊が私たちの内に入ってくださいました。その働きは、罪を示し、私たちを教え導き、私たちの祈りを完全なものとして父なる神に届けてくれることなどです。今日は、霊の賜物を授けることについて話します。これに関する個所がいくつかあります。

コリント第一 12:1, 12:11

12:1 兄弟たち、霊的な賜物については、次のことはぜひ知っておいてほしい。…12:11 これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。

メッセージ

クリスマス時期に限らず、多くの人がこれといった目的もなく生きています。私たちが霊の賜物の包みを開いてみれば、生きる目的が分かってくるのではないのでしょうか。今日、霊の賜物を見出すことについて理解を深めてくれる聖書個所をともに考えたいと思います。

ローマ12: 1-8.

12:1 こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。12:2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしておいて自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。12:3 わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。12:4 というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、12:5 わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。12:6 わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なる賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、12:7 奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。また、教える人は教えに、12:8 勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。

ではこの聖書個所をひとつひとつ見ていきましょう。

ローマ12: 1,2

12:1 こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。12:2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしておいて自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

パウロは、信徒たちが常に変えられるようにと勧めます。ここでおもに語られているのは、心を新たに
して自分を変えていただきなさいということです。この個所を短くまとめると、こういうことです。私
たちは考え方を新しく変えられなければなりません。これは聖霊の力と權威によってなされるクリス
チャンの変革です。新しい考え方のひとつめは、3節に記されています。

ローマ12:3.

12:3 わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。
むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。

クリスチャンの変革における第一の特徴は、謙虚さです。

クリスチャンの変革における第一の特徴は、謙虚さです。当時主流だったギリシャ哲学の思想は、自ら
を優れたものと考えべきと教えました。そこには謙虚さの入る余地はありません。ですから、新しい
考え方へと変えられる過程として、自分は他人に比べて重要人物ではないと考えるようになるはずで
す。自分自身を過大評価するとどんな落とし穴があるか、神はみことばをとおして念を押されます。

箴言16:18

16:18 痛手に先立つのは驕り。つまずきに先立つのは高慢な霊。

クリスチャンの変革における第二の特徴は、4-5節に見られます。

ローマ12:4, 5

12:4 というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていな
いように、12:5 わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分な
です。

クリスチャンの変革における第二の特徴は、多様性に見られる一致です。

ここで3つのことがわかります。

多様性に見られる一致

- 私たちの体には多くの部分がある。

5節は、「わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分
なのです」と語ります。クリスチャンであることの何が素晴らしいかと言うと、私の内に住まわれ
る聖霊が、皆さんの内にも住まわれるということです。こういうわけで、各自は互いに部分だと
みことばは語るのです。それは、私たちが聖霊によって結ばれているからです。

多様性に見られる一致

- 私たちの体には多くの部分がある。
- それぞれの部分が重要である。

私たちの住む団地では、JSワーカーという人たちがいます。この人たちの仕事を観察すると、全員が
自分の仕事に誇りを持ち、一丸となって働いているようです。それぞれの仕事内容は、ごみの分別、落
ち葉集め、床掃除とさまざまですが、そこには一致団結して働く雰囲気があります。

多様性に見られる一致

- 私たちの体には多くの部分がある。
- それぞれの部分が重要である。
- 皆が互いに頼りあっている。

キリストの体で、すべてをこなせる部分はありません。たとえを使って説明してみましよう。

昔々ある森に、動物たちが集まっていました。動物たちは、みんなが何でもできるようになればすばら
しいと思い、学校を始めることにしました。学校に入った動物は、あひる、うさぎ、



りす、そしてワシです。学校では、かけっこ、木登り、水泳、飛行訓練のクラスが導入されました。運営を簡単にするため、全員が全部のクラスに出席することになりました。あひるは水泳がよくできて、先生よりも上手なほどでした。けれども、飛行訓練では及第点をつけるのがやっとで、かけっこは大の苦手でした。走るのが遅かったのも、水泳のクラスをやめて、放課後走る練習をしなければなりませんでした。水かきのついたあひるの足は、走ってばかりいたせいで擦り切れてしまい、水泳もまあまあのできになってしまいました。でも、まあまあできるならそれでよいと誰もが思いました。あひるだけが少し不安を感じていました。



うさぎはクラスで一番かけっこが速かったのですが、水泳の補習授業に行き続けたせいで、筋肉がけいれんするようになってしまいました。

りすは木登りが得意でしたが、飛行訓練のクラスは大嫌いでした。先生が、木の上からではなく地上から飛ぶようにと教えたからです。頑張りすぎてこむら返りを起こし、その結果、木登りの成績も3、かけっこは2になってしまいました。

ワシは問題児で、協調性がないと厳しく注意されました。木登りのクラスでは、他の誰より一番に木のとっぺんに着きましたが、独自の方法を使いました。木のとっぺんまで飛んだのです。



この話の要点は、動物と同じで人間もそれぞれ違った能力や苦手分野があるということです。その能力や苦手分野を無視して活動しようとする、ストレスがたまったり、がっかりしたりします。私たちが造ってくださった神のご計画にそって私たちが働くなら、神の御国で最善の働きをすることができます。

ですから、キリストの体の中ですべてを自分がしようとするのではなく、与えられた賜物にまず集中することが重要です。

使徒パウロは、クリスチャンの変革は謙虚さを生み出す、そして多様性の中に一致がある、と教えます。このふたつは、実践においてともに働きます。なぜなら、

クリスチャンの変革における第三の特徴は、働きを生み出すだからです。

クリスチャンの変革における第三の特徴は、奉仕を生み出す、です。

ローマ12: 6-8

12:6 わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、12:7 奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。また、教える人は教えに、12:8 勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。

6節は、私たちはそれぞれこれらの賜物を持っているので、それにそって賜物を使うべきであると語ります。

霊の賜物を用いることで得られる3つの主な効用。

霊の賜物を用いることで得られる3つの主な効用

1. 神が栄光をお受けになる。
2. 人を教え、徳を高める。
3. 自分自身が充足感を得る。

#1, 神が栄光をお受けになる。――私たちのすることはすべて、神に栄光をもたらすものであるべきです。(コリント第一10:31)

#2 人を教え、徳を高める。――賜物は、教会を建て上げるために与えられます。私たちには、賜物とおして教会の体に仕える能力があります。賜物を用いないなら、信徒仲間たちはその能力の恩恵に与れません。神がレストランを経営しておられると想像してみてください。そこでの仕事は、例えて言うなら私たちの霊の賜物のようなものです。レストランの経営がうまくいくには、各々の仕事すべてがなされていないといけません。レストランには、ウエイトレス、シェフ、レジ係などいろんな役割の人がいます。そこに客が入ってきて、ウエイトレスに一番簡単なメニューを注文します。トーストとしましょ

う。ウェイトレスは厨房に「トースト一人前」とオーダーをとおします。けれども、厨房にはシェフがひとりもいません。そこで、冷蔵品在庫の担当者がなんとかしようと思って、パンを二枚冷蔵庫に入れました。数分後パンを取り出し、ウェイトレスに渡します。ウェイトレスがそれを客に持っていったら、客はどれほどがっかりするでしょう。

#3, 自分自身が充足感を得る。——自分の賜物を知り、それをを用いることは、生きがいを見出すことにつながります。私たちは、キリストの体の一員としての自分の存在意義を考えることがあります。霊の賜物は、私たちがその答えを見つけて充実感を得る手助けをしてくれます。人に仕えることで、喜びや達成感を得るからです。私たちがいただいた霊の賜物は、キリストの体における職務内容を物語ります。

結び

皆さんにおわかりいただきたいことがあります。才能と賜物は違います。才能は、生まれつきの場合もあれば、訓練によって得たものの場合もあります。一方、霊の賜物は、私たちの内におられる聖霊の臨在によるものです。要するにこういうことです。新生したクリスチャンでなければ、聖霊を受けていないので、霊の賜物也没有ありません。救われる前、私たちの人生における聖霊のおもな働きは、罪を示し、救い主が必要であることを私たちに知らせることです。

ヨハネ16:8

16:8 その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。

最後にまとめとして申し上げます。

霊の賜物はクリスチャンに与えられる。

まだクリスチャンになっていないなら、神からの賜物が未開封のままあなたを待っている。

賜物を用いて奉仕していると、奉仕は重荷ではなく、喜びになる。

皆さん、賜物の包みを開いて、神の栄光のためにそれを用いましょう。

最後にクリスチャンの皆さんにお尋ねします。ご自分の霊の賜物が何かご存知ですか。それとも、前年のクリスマスプレゼントを探しに行ったときの兄と同じ答えでしょうか。「何をもらったんだっけ？」